



12月号

平成8年12月1日

発行／編集

岡崎市教育委員会

長生きしてね
元気でいてね

そんな言葉をつぶやきながら
一、二年生が鶴を折る

六年生は折り紙の先生を務める

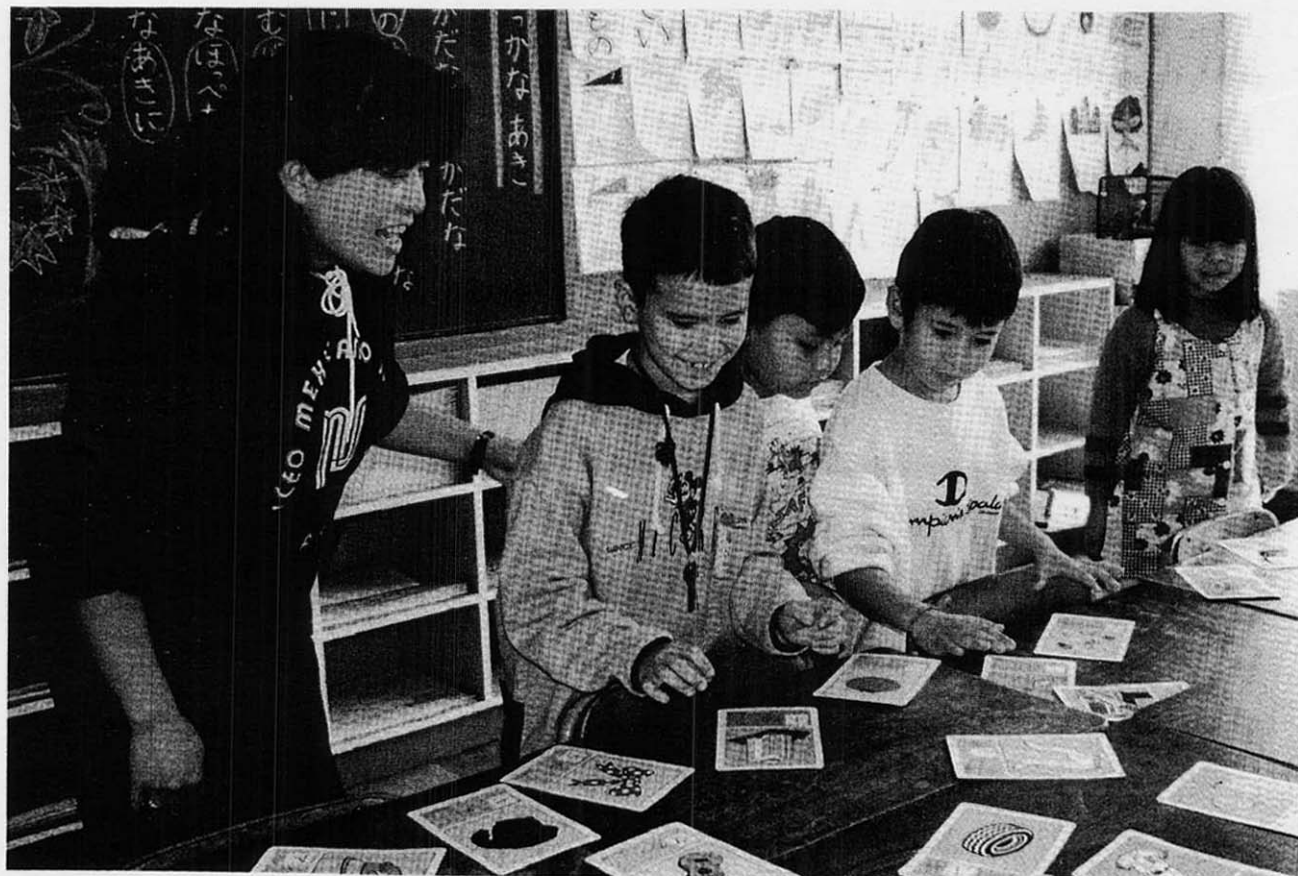
三、四年生はピッチが速い
一羽一羽に心を込めて
慣れた手つきで鶴を折る

長生きしてね
元気でいてね

五年生は仕上げを受け持ち
百羽ずつ鶴を束ねていく
一万羽の鶴がで上がる

全校の みんなの願いが
届くといいな

〈お年寄り訪問に向けて〉



(楽しい日本語教室 — 城南小)

夏休みが終わり実りの秋のころには、各学校新聞に子供たちの体験学習での、さまざまな収穫の喜びの姿が掲載されていた。これは、実践体験学習が、生活科の授業で取り入れられ定着してきた成果であろう。

私たちの子供のころには、実践体験を学校で教えていただくこともなかった。家で兄や姉の行動を見なが



ら何度となく失敗を繰り返し、知らず知らずのうちに自然と判断する力を身につけてきたように思う。また、食事のときは、父を中心に家族が食卓を囲み一日の団欒を大切にしたり、おやつなど用意されなかったし、小遣いももらうこともほとんどなかったが、毎日が楽しかった。

ところで、私が前任の消費生活課

でのことである。家庭での体験を通して自分で判断することが乏しくなつたせいも、若者の消費者被害が増え、問題となった。資格商法、アポイントメント商法、キャッチセール、マルチマがい商法等々の被害である。これを未然に防ぐには、実社会と結びついた実践体験教育が大切ではないかと、愛知県消費者保護審議会で

— 教育随想 —

教育 雑 感

西三河事務所長
谷口 嘉孝



話し合われた。そして、昭和六十年十二月には、県知事に対し、「本県における消費者教育の在り方に関する意見書」が提出されるに至つた。

そこで、県では、国（文部大臣）に対して昭和六十一年三月に、「消費者教育の充実について」の『要望書』を提出した。「社会教育、学校教育、家庭教育を通しての生涯教育

としての消費者教育の一層の充実、とりわけ成長過程にあり教育効果の高い児童生徒・学生を対象に、自立する消費者教育の充実が不可欠だ」というものである。なんとか小学校の低学年のうちから金銭教育や消費者教育を取り入れてもらいたいと考えた。その結果、平成四年度から低学年に見学だけではない、体験を通して学び、自主的な判断能力を養う体験学習が始まったのである。

しかし、行政側を始めいろいろな分野で、問題の解決策を学校に求め過ぎてはいないかと、最近考へる。これでは、先生はさまざまな要望に振り回され、本来の教育ができなくなるのではないかと懸念している。昔から「親の後ろ姿を見て子は育つ」とか「子を見ればその親が分かる」といわれている。姿勢の基本は、家庭である。子供のころから自分で正しく判断できる躰をしっかりと身につけておくべきであると思う。その基盤に立って、学校では、子供に正面を向いた教育ができるのではないか。いじめや登校拒否等のさまざまな問題を解く鍵も、ここらにあるのではないかと考へる。

(たにぐち よしたか)



ALTとの

ティーム・ティーチング

英語科指導員

白井直美

「Chris do you like, England or Japan?」「クリス先生、イギリスと日本とどっちが好き?」N君は一生懸命覚えた英語でALT（外国語指導助手）に質問した。イギリス出身のクリス先生は少し困つたような表情を見せながら、「Both」「両方よ。」と力強く答えた。「日本が大好き、特に岡崎や岡崎の子供たちが大好き。でも、故郷のイギリスもとても大切に思う。」とJTL（日本人教師）の助けを借りて付け加えた。N君は「ふうん。」と言いながらも満足そうに座つた。

N君は英語を書くことが苦手である。しかし、話したり、読んだりす

ふるさとシリーズ

この人に聞く



国研交流委員

神谷 宏 氏

愛知教育大学の跡地の丘の上に洗練された建物が並ぶ。分子科学研究所、基礎生物学研究所、生理学研究所である。三研究所は有機的に統合し、岡崎国立共同研究機構（略称で国研）と言う。

ここからの論文は、From OKAZAKIとして世界各国の大学や研究所に送られ注目を浴びている。

我々市民が知らない間に、岡崎の名は世界を飛び回っている。

このような国研と市民の交流活動の推進役を務めた産婦人科医神谷先生を訪ねた。昭和五十九年に、岡崎

南口タリークラブで国研交流委員会が設立され、設立の準備段階から奔走された神谷先生は、国研交流委員長を十年間務め、現在も国研との太いパイプ役として活躍されている。神谷先生は、設立当初の様子を次のように語られた。

「はじめて国研を訪ねた時はとても緊張しました。ノーベル賞を取るような優秀な先生方がいるという程度の認識しかなかったからです。当時の機構長の内園耕二博士に交流委員会設立のご挨拶に伺ったわけです。予想に反して、内園先生は大変気さくに応対していただき、研究所が聖域であってはいけないう……という言葉までいただきました。」

このような出会いから始まり、委員会として三つの基本要項を定め活動を開始された。

一、国立研究所に対する市民の認識と理解を高める活動

二、青少年の科学への関心を高め、更に科学教育振興のための活動

三、国内外の研究者及びその家族と親交をはかり、ひいては国際的友好を深め、相互理解を高めるための活動

この三点に添った活動は、数々の

成果を挙げた。

市民大学への講師の派遣、外国人研究者のための英文ガイドブックの作成、教員のための国研セミナーの開設、各種の国際会議への協力などがその一例である。

「帰国した外国人研究者から、きれいなクリスマスカードが届くんですよ。」と語る先生。今も、多くの外国人研究者と交流している。

そのお人柄と優れた国際感覚に裏付けされた行動力が国研交流活動を支えていることを痛感した。

氏 名 かみや ひろし
生年月日 昭和三年一月一日
住 所 明大寺町諸神十



る声はとても大きく、元気がよい。特にALTTとのティーム・ティーチングでは、生き生きとした表情を見せ、一挙に主役にのし上がる。ALTTはそんな彼を温かく見つめ、褒めることを決して忘れない。

岡崎市にALTT制度が導入されて八年目を迎える。現在では五名のALTTが分担し、各校を年間七十日ほど訪問する。ALTTの訪問回数が増えることにより生徒たちは大きく様変わりした。恥ずかしがりで消極的な態度が、物おしせず積極的に話し掛けていくようになった。言葉だけでなく、ジェスチャーや表情でもコミュニケーションできることも体験を通して学んできた。何よりも伝えようとする気持ちが大変なことを肌で感じてきた。国際化に対応できる生徒の育成のためにALTTとのティーム・ティーチングの果たす役割は大きい。

【推薦する専門書】

『新学力観に立つ英語科の授業改善』

明治図書

『中学校英語科の

ティーム・ティーチング』

明治図書

火の用心



消防団の活動

▲平成8年岡崎市総合防災訓練「大規模地震による延焼阻止訓練」

「自分の町は自分たちの手で守る」の精神から生まれた消防団。そのルーツは江戸時代の町火消しにまでさかのぼる。

昭和二十三年、消防組織法の制定により、それまで警察機構の一部であったものが独立し、現在のような消防署が岡崎に設置された。しかし、それとは別に町の消防団は規模や形を変えながら、常に私たちの身近に存在していたのである。

現在、岡崎には二十の消防団が組織されており、千七百七十七人の団員により構成されている。また、消防団はさらに百十三の部に分かれており、各部の車庫警備室にはポンプ車や小型動力ポンプを積んだ積載車が配備されている。

消防団への入団資格は市内在住の十八歳以上の身体強健な男子。

主な活動は災害時における消防署員の側面支援、緊急出動時に備えての団体訓練や地元民への防災の啓蒙などである。

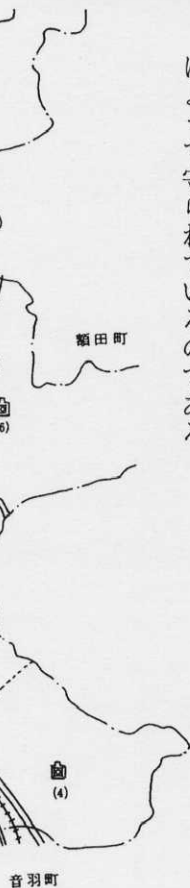
訓練は夜間や早朝、土、日などの休日を利用して行われることが多いのは、皆それぞれに仕事を持つ身であるがゆえ。私たちの安全は、彼ら団員の郷土愛護のボランティア精神によって守られているのである。

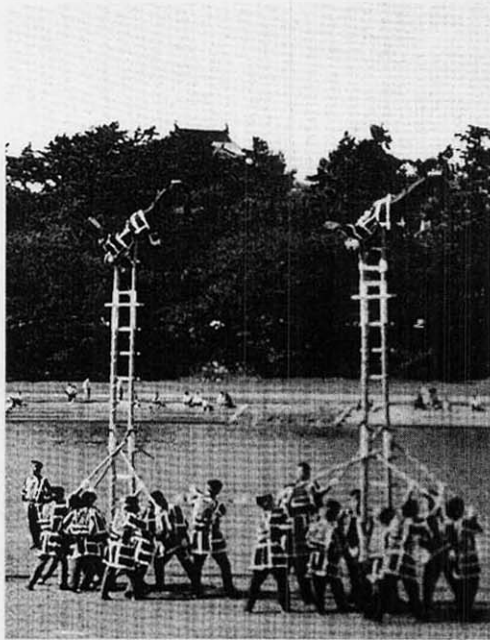


▲消防操法大会「小型ポンプの部」



▲林野火災訓練





▲岡崎市消防団連合観閲式「階段操法」



▲三島消防団第2部車庫警備室



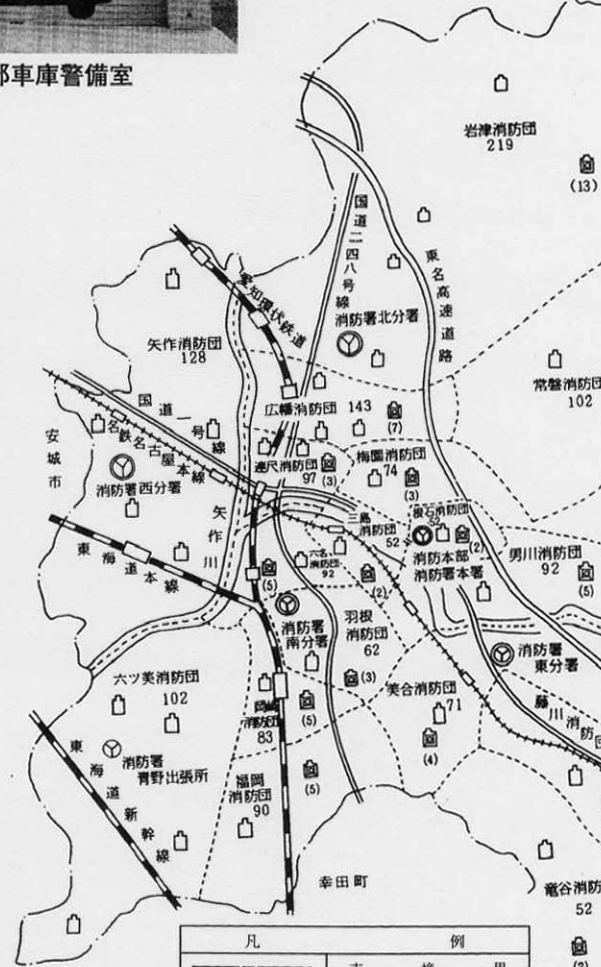
▲消防出初め式「消防車の分



▲「防災を体験する家庭の日」の初期消火の指導



▲水防訓練



凡 例	
———	市 境 界 界
- - - - -	消 防 団 境 界
⊙	消 防 本 部
⊙	消 防 署 本 署
⊙	消 防 署 分 署
⊙	消 防 署 出 張 所
⊕	消 防 団 消 防 車
⊕	消 防 団 小 型 動 力 ポ ン プ 付 積 載 車
()	(数 字 は 台 数)
アラビア数字	消 防 団 員 数



すてきな学芸会を

ありがとう

福岡小学校

天野 季和子

「先生、明日から学芸会まで三日間だけど、学校に行けそうです。明日の校内学芸会は、見学の方がいいのかな。練習してないから、みんなに迷惑を掛けるといけないし……。」

「一緒にやろうよ。セリフは覚えてでしょう。劇のことは大丈夫。みんなが教えてくれるから。」

病気で入院中のT君からの久しぶりの外泊許可の電話に「全員でできるうれしさ」で迷うことなく答えた。校内学芸会前日の夜のことである。

「小学校生活最後の学芸会。悔いのないように全力でやろう。みんなの心を一つにして最高のものにしよう。」

この言葉を合言葉に、今までT君の分まで頑張って練習し



てきた子供たちである。T君の気持ちには理解できるだろう。

翌朝、そのことを伝えると、「一緒にやろう。間違っても大丈夫。みんなでカバーするから。」

と、子供たちはT君に話し、早速場面の様子を説明したり実際にやって見せ始めた。T君も一緒に演技したり、真剣な表情でうなずいている。校内学芸会の合間をぬって、演技指導や練習が続けられた。

「T君、上手だったよ。」

「初めてなのに完ぺきだよ。」

「楽しかった。ありがとう。」

子供たちの優しさ、一人一人の輝きに胸が熱くなるすてきな学芸会となった。

師弟同行

感性を育てる授業

矢作北中学校

秋山 禎子

加藤先生、お元気でいらっしゃいますか。先生には縁あって、クラスが変わったにもかかわらず、中学校三年間のすべてを担任していただきました。幼いころから音楽が好きであった私にとって担任の先生が音楽を専科とされていることは、とてもうれしかったのを覚えています。

音楽の授業の中の先生の柔らかい美声にはいつもつとりさせられていたのを記憶しています。また一年生の時の研究授業では、リコーダーを中心としたグループアンサンブルをさせてもらいました。その授業の中でも、生徒たちの感性をととても大切にしてく



さり、それを上手に引き出していただいたように思います。

音楽教師となった今、先生のそんな姿勢をいつも手本に、生徒たちと接していきたくと考えています。そして先生が常々おっしゃっていた「ベストを尽くす」ことも忘れないでいたいと思います。

どうかこれからもお身体を大切にされ、ご活躍下さい。

温かい心の名伴奏者へ

福岡中学校長

加藤 明

「こいちゃん」いまでもあなたを呼ぶときは昔の愛称がついてしまっています。

中学生の仲間は、みんなあなたを、旧姓の小泉から生まれた愛称で呼んでいました。

当時私は、久し振りにクラス担任となり、ちょうど我が

子と同じ年ごろの生徒を持って大変うれしく、感激の毎日でした。みんなにはうつつとしい存在であったらうと今になって反省しています。

一年生の四月、家庭訪問であなたの家を訪問した時、幼いころから音楽の道を志し、ピアノを勉強していることを聞いて早速演奏してもらったことをよく覚えています。たしかモーツアルトのk五四五だったと記憶しています。やわらかなタッチで音楽性豊かな演奏に感心し、大変うれしく思いました。それは誠実で、飾り気のない人柄を感じさせる演奏だったからです。

音楽の授業では、いつも気軽に伴奏を引き受けてくれ、大変助かりました。

伴奏は、相手の心を感じ取り、その心にびったり寄り添って音楽を創り上げるものです。いつも冷静に、ちよつと距離をおいて温かく寄り添う名伴奏者のこいちゃん、これからもいっそうすばらしい演奏を聴かせてください。



◆全国自作視聴覚教材コンクール
中学校部門
文部大臣賞(最優秀賞)

「知られざる大地震―三河地震を探る―」
AVL・現職教育理科部
優秀賞

「リサイクル活動―その現状と課題―」
AVL・現職教育社会科部
入選

「Joyful English-A PHONE CALL-」
AVL・現職教育英語科部
小学校部門
優秀賞

「いつでもある水?」
AVL・現職教育社会科部
社会教育部門
優秀賞

「城下町岡崎―その成り立ち―」
AVL・現職教育社会科部
第五回東海地区読書ゆうびん
コンテスト
入選

- 附属小 二年 林 大地
- 本宿小 四年 杉浦加保里
- 緑丘小 六年 峰澤 里志
- 緑丘小 六年 池田 真弓
- 竜美小 五年 見並 良治
- 南 中 三年 加藤 悠

第35回岡崎市小学校陸上競技大会 ☆大会新 ○大会タイ

総合	優勝	2位	3位	4位	5位	6位
男子	大樹寺	大門	六ツ美南部	六ツ美北部	広幡	根石
女子	北野	附属	竜美丘	矢作北	上地	大樹寺

種目	選手名	校名	記録
5年100m	杉浦巧巳	大門	13"9
100m	中山満	大樹寺	☆12"5
80mH	片山陽介	六ツ美北部	12"3
1000m	川野竜男	竜谷	3'07"9
走り幅跳び	長見祐介	六ツ美南部	4m61
走り高跳び	藤井勇吏	矢作西	1m43
ソフトボール投げ	大畑寿仁	大門	66m40
400mR	中山・中根 伊藤・小林	大樹寺	54"8

種目	選手名	校名	記録
5年100m	藤田桃子	大門	14"7
100m	内田琴美	北野	○13"5
80mH	堀真弓	矢作北	☆12"3
1000m	斉藤晴香	竜美丘	3'22"4
走り幅跳び	畔柳里恵	六名	4m14
走り高跳び	本田唯	北野	1m38
ソフトボール投げ	氣賀澤佳代	北野	47m72
400mR	内田・宇留島 高岡・成田	北野	58"4

第40回愛知県統計グラフコンクール

小学生1年～3年の部 金賞	三島1年
細井美里	三島1年
大久保朋美	三島2年
市川川詳	三島2年
伊藤友希	三島2年
大久保希由	三島3年
大久保真由	三島3年

小学生4年～6年の部 金賞	三島4年
奈倉由佳	三島4年
杉浦二美	三島5年
花井優子	三島6年
石井優里	三島6年
桜野あお衣	大樹寺6年
宇野美沙	大樹寺6年
成田ひと美	大樹寺6年

中学生の部 金賞	竜海2年
中根玉喜	竜海2年
山田亮介	竜海2年
平子佳知	岩津2年
柴田佳伸	岩津2年
出口真希子	岩津3年
今泉勇	六ツ美北3年

パソコンの部 金賞	城北1年
神取咲子	城北1年
東脇子悠	城北1年
大河原誠也	六ツ美北中3年
市川紗也子	六ツ美北中2年
市木村由佳	六ツ美北中2年
藤澤美代子	六ツ美北中2年
長江三智	六ツ美北中2年
河本彩	矢作北中3年

◆FBC秋花壇コンクール
中日賞 六ツ美中部小学校
◆高松宮杯第四十八回全日本
中学校英語弁論大会県大会
県代表
岩津中 三年 石原 知淳

◆第十回県女子中学生英語弁
論大会
優秀賞 美川中 深津由布子
優良賞 竜南中 西川 麻美

◆第三十九回中部日本吹奏楽コ
ンクール本大会・小編成の部
準優勝グループ 岩津中学校

◆第四十回県学生科学賞
最優秀賞

指導者奨励賞 竜海中学校

「食虫植物の秘密を探る」
六北中 二年 草間一志・居城守哉
◆第四十六回全国小・中学校
作文コンクール県審査
優秀賞
福岡小 一年 山本 翔也
矢北中 一年 村上 翠

六南小 一年 武田 美香
藤川小 二年 吉口 佳織
福岡小 三年 市川 雄基
矢北中 一年 木内 聡美

◆第十回毎日カップ・中学校
体力つくりコンテスト

指導者奨励賞 竜海中学校

指導者奨励賞 竜海中学校

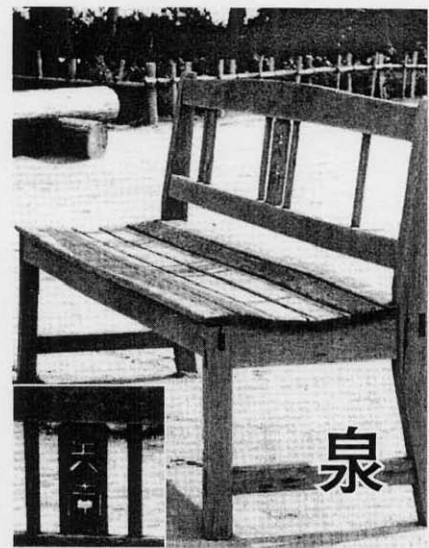
第29回岡崎市中学校新人総合体育大会

	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	福岡	南	矢作北
	女	竜南	矢作	六ツ美
バスケットボール	男	竜海	矢作	矢作北
	女	竜南	竜海	北
バレーボール	男	矢作北	東海	六ツ美
	女	矢作	矢作北	竜南
ソフトテニス	男	常磐	城北	岩津
	女	矢作	城北	六ツ美北
卓球	男	城北	矢作	六ツ美北
	女	常磐	葵	六ツ美北
体操競技	男	竜海	甲山	
	女	甲山	竜海	矢作北
新体操	男	東海	竜海	
	女	甲山	竜海	矢作北
剣道	男	竜海	矢作北	葵
	女	六ツ美北	南	矢作北
ハンドボール	男	葵	竜南	六ツ美
	女	美川	竜南	六ツ美北
軟式野球	男	矢作	城北	岩津
	女	城北	北	矢作
ソフトボール	男	六ツ美北	竜海	竜南
	女	甲山	新香山	矢作北
サッカー	男	甲山	新香山	南
	女	南	北	城北
水泳	男	美川	葵	矢作北
	女	美川	葵	矢作北

石のつた
大樹寺小

家康の自立にちなんで造られた「自立の庭」。三代目旗掛の松、家康公像が子供たちを見守っている。





泉

蔵 小南作矢

木製長椅子

今ではあまり見られないが、講堂の中に整然と並べられている長椅子のことを覚えているだろうか。

がら黄色や青に塗られて、(ソフトボールなどの)ベンチとして立派に活躍している。

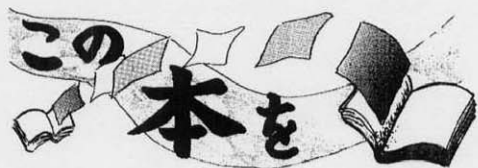
郷土館にも二脚、郷土館が

写真の長椅子は、現在矢作南小学校で、校庭のベンチとして使われている物である。わずかに五脚しか残っていないが、当時は講堂の後ろの方にたくさん積まれていたそうである。中央の背もたれの部分には、「矢南」と透かし彫りで校名が記してある。座る面はまっすぐではなく、脚の形に合わせて微妙にカーブしている。現在は、補修されな

中央公民館だったとき使用した長椅子がある。これも同様に、背もたれに「公」と彫られ、丁寧に作られた物だといふことが分かる。講堂が体育館に建て替えられるにしたがい、長椅子は姿を消し、一人用のパイプ椅子になった。金属製にはない木製の何とも言えない温かみと友人と触れ合える楽しさとも味わえない。

・表紙写真
・表紙詩
・カット

城 南
城 南
小 小
村 柳
畔 松
稲 次
義 明



- *山霧 毛利元就の妻 上・下 永井 路子
文藝春秋 ￥1300
- *EQ こころの知能指数 ダニエル・ゴールマン
講談社 ￥2000
- *気遣い心遣い 内海 好江
PHP ￥540
- *マンガの心 発想とテクニック 手塚 治虫
光文社 ￥1300

- *戦略家ニクソン 田久保忠衛
中公新書 ￥760

本書の最初にあるニクソンの生い立ちから社会に出るまでの精神形成期の話は、今の若い世代の者にはとてもためになる。

本書の圧巻は、ニクソン自身が『回想録』の中で「今世紀最大の外交的意外性の一つ」と評した1971年7月15日の訪中発表をめぐる政治的な駆け引きを分析した部分である。浪人中の彼が、アジア全域でアメリカが低姿勢になるという独自の戦略論を、論文「ベトナム後のアジア」にまとめていく過程を解明したところは引き付けられる。

オカザキ発の論文に世界が注目している。学会誌では、岡崎の名前が世界を飛び回る。外国からの研究者が常時三十人は研究に携わっている。年間千人を越す外国人研究者が暮らす岡崎は、正に国際都市と言っても良い。国際都市にふさわしい市民でありたい。



「しめぢ裂く指先に目があるごとく(加藤楸邨)なべ物には欠かせないシメジも、近年は菌床栽培で効率よく生産できるようになったという。季節感と味わいの薄い食品に慣らされて、「旬」を賞味する鋭敏な感覚を子供たちは失ってしまいはしないだろうか。

雨ざらしではあるが、白っぽくなりながら必死に踏ん張っている感じがする長椅子。子供のころ、四、五人で座ったことを覚えている。一人では重くて運びづらい物だった。だんだんなくなっていくものだと思うとなんとなく寂しい気がする。

昔生川の河川敷で、繰り広げられる防災訓練。そこには、真剣に取り組む消防団員たちの姿があった。地域のため、忙しい日々の合間をぬって、地道な活動を積み重ねていく。そこに、ボランティア精神の真髄を見た思いがした。